

## 特別講演 2

### 「心房細動患者に対する抗凝固療法

### 知りたいこと、聞きたいこと」

香川県立白鳥病院長

坂東 重信 先生

心房細動患者に対する抗凝固療法においては、ワルファリンが使用されてきたが、凝固能の管理が難しいなど、問題点も多い薬剤である。これに対して DOAC (NOAC) は、ワルファリンに比べて有効性、安全性が優れているため、多くの患者に投与されている。

DOAC の大規模試験は、患者背景に大きな違いがある。また、大出血の定義なども違うために、有効性、安全性を並べて比較出来ない。CHADS2 スコア 3 点以上の患者を対象とした解析では、有効性、安全性に大きな違いを認めていない。

DOAC は半減期が短いために、高い服薬アドヒアランスが求められるが、内服率の検討では 1 日 1 回薬が 2 回薬に比べて 8%程度良好であり、2 回薬で残薬が多かった。

高齢者に対する抗凝固療法は、治療を行うのかどうか、投与量をどうするのか、いつまで治療を行うのかなど、判断が難しいために避ける傾向に有る。しかし、年齢だけで決めることは出来ない。患者だけでなく、周囲のサポートなど総合的に判断して決めることが必要である。

DOAC の使用においては、有効性、安全性を確保するためにも、投与方法や投与量を適正に使用し、禁忌や注意事項を守って使用することが大切である。